

各機関のプロジェクト の取組



**六角川水系
緊急治水対策
プロジェクト**

目 次

六角川水系緊急治水対策プロジェクト	1
①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】	6
②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】	16
③減災に向けた更なる取り組みの推進【まちづくり、ソフト施策】	16
1. 武雄河川事務所	17
2. 多久市	22
3. 武雄市	24
4. 小城市	31
5. 大町町	36
6. 江北町	38
7. 白石町	41
8. 森林整備センター	43
9. 佐賀県	45

六角川水系緊急治水対策 プロジェクト

六角川水系緊急治水対策プロジェクト

～国、県、市町等が連携し、逃げ遅れゼロと社会経済被害の最小化を目指す～

○令和元年8月豪雨において甚大な被害が発生した、六角川水系における今後の治水対策を関係機関が連携し、「**六角川水系緊急治水対策プロジェクト**」として取りまとめました。

○国、県、市町等が連携し、以下の3つの取り組みを実施していくことで、概ね5年間で「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

③減災に向けた更なる取り組みの推進【まちづくり、ソフト施策】

①被害の軽減に向けた治水対策の推進 【河川における対策】約418億円

- 六角川水系牛津川では、これまでの観測史上最高水位を更新する大きな洪水が発生し、堤防からの越水が複数発生するなど、治水施設の限界を超えるような事象が発生

→被害の軽減に向けた治水対策を加速化し推進を図る。



佐賀県多久市内における浸水被害状況

<主な取組メニュー>

- 被災施設等の迅速な復旧
- 河川水位を低下させるための取組
 - ・遊水地等の洪水調整施設の整備
 - ・洪水が円滑に流れやすい河道整備の推進
- 施設規模を上回る洪水に対する取組
 - ・危機管理型ハード対策
- 既存施設を活用した洪水被害軽減対策
 - ・堰、排水機場等の遠隔操作化、樋管等の無動力化
- 河道・管理施設等の適切な維持管理

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進 【流域における対策】

- 有明海に注ぐ、六角川水系は大きな干満差と低平地の佐賀平野の地形特性により、これまでも度々支川の氾濫被害を被ってきた。

→国、県、市町等が連携して浸水被害の軽減対策について検討し、取組を進める。



佐賀県小城市内における浸水被害状況

<主な取組メニュー>

- 支川の流出抑制・氾濫抑制の取組
 - ・ため池等既存施設の有効活用
 - ・クレークを活用した雨水貯留容量の確保
 - ・雨水貯留施設、透水性舗装の整備等
- 既存排水機場の耐水化の取組
 - ・排水機場の耐水化の推進
- 浸水被害を軽減する取組
 - ・排水機場等の整備
- “逃げ遅れゼロ”へ向けた情報発信システム等の整備

③減災に向けた更なる取り組みの推進 【まちづくり、ソフト施策】

- 堤防からの越水や支川の氾濫などによる様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難であった。

→住まい方の工夫と、きめ細やかな情報提供等を国、県、市町等が連携し実施することにより、「減災」の取組を推進する。



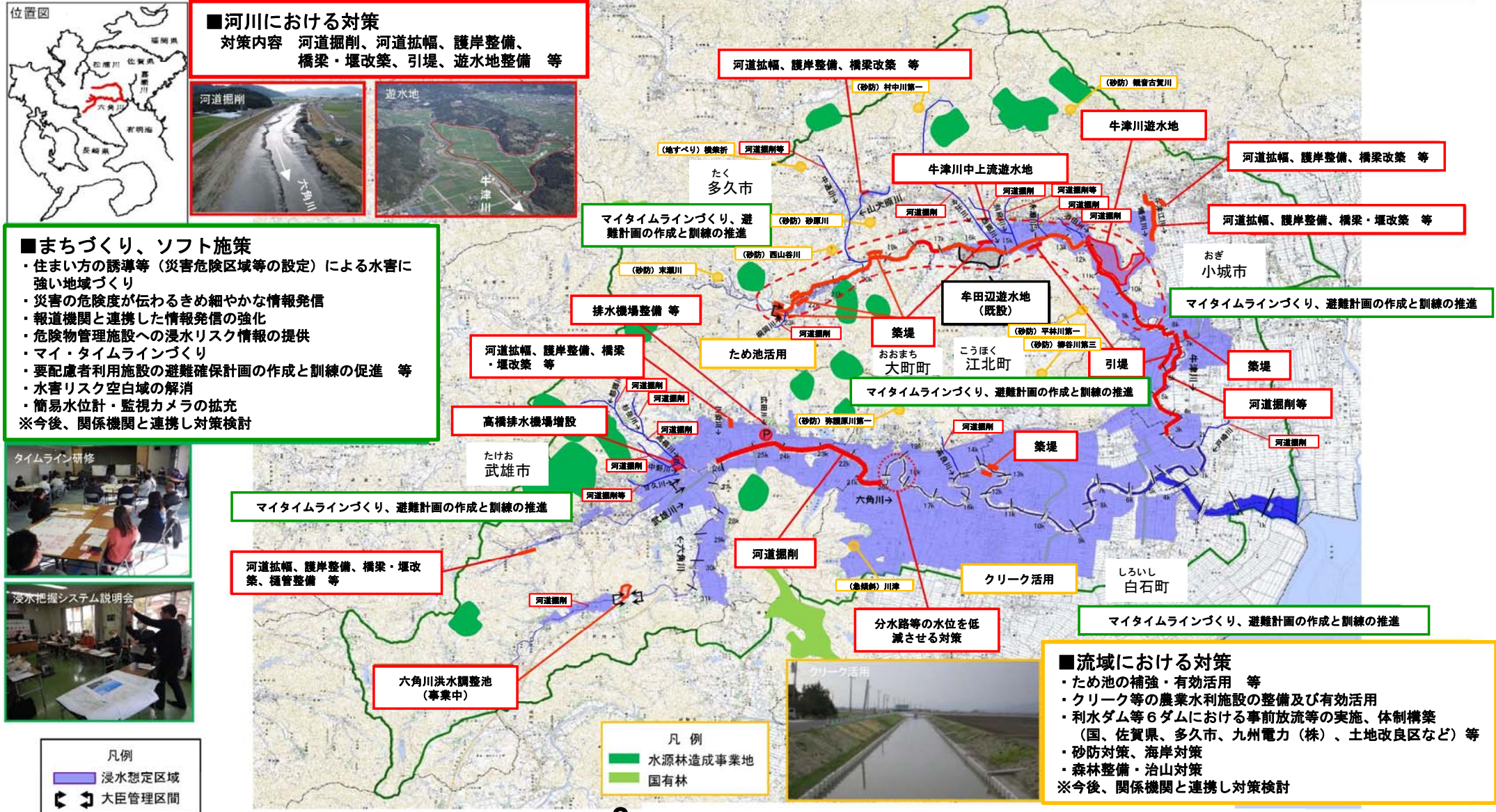
佐賀県大町町内における浸水被害状況

<主な取組メニュー>

- 住まい方の工夫に関する取組
 - ・「まちづくり」による水害に強い地域への誘導
 - ・住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの推進
- 災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組
- 防災教育や防災知識の普及に関する取組
- 要配慮者利用施設の避難に関する取組の推進
- 大規模災害時における迅速な復旧支援の取組

六角川水系緊急治水対策プロジェクト（位置図）

○令和元年8月豪雨では、六角川水系牛津川で観測史上最高水位を記録し、堤防から越水、支川や水路からの氾濫により、六角川水系において甚大な被害が発生したことを踏まえ、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大規模の平成2年7月洪水及び令和元年8月洪水と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。



六角川水系緊急治水対策プロジェクト（R2年度までに進捗した取組）

主な取組メニュー		主な取組項目
①被害の軽減に向けた治水対策の推進 【河川における対策】	河川水位を低下させるための取組	遊水地等の洪水調整施設の整備 洪水が円滑に流れやすい河道整備の推進
	施設規模を上回る洪水に対する取組	危機管理型ハード対策
	既存施設を活用した洪水被害軽減対策	堰、排水機場等の遠隔操作化、樋管等の無動力化
	河道・管理施設等の適切な維持管理	河道内の堆積土砂の撤去、樹木・ヨシ等の植生管理
②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進 【流域における対策】	支川の流出抑制・氾濫抑制の取組	ため池等既存施設の有効活用 クリークを活用した雨水貯留容量の確保
	既存排水機場の耐水化の取組	排水機場の耐水化の推進
	浸水被害を軽減する取組	排水機場等の整備
	”逃げ遅れゼロ”へ向けた情報発信システム等の整備	浸水予測情報等の発信
③減災に向けた更なる取り組みの推進 【まちづくり、ソフト施策】	災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組	水位周知河川の拡充、洪水浸水想定区域図の作成促進等による浸水リスク情報の周知
		支川の氾濫に着目したハザードマップ等を作成し、リスク情報を周知
		ケーブルテレビ、SNS等を活用した情報発信の強化
	防災教育や防災知識の普及に関する取組	水害の記憶の伝承 地域住民や小・中学校生等を対象にした防災教育の推進

本プロジェクトのうち、令和2年度の代表的な取組は以下のとおりです。

- 直轄区間においては、河道掘削を重点的に行うことで、河川水位の低減に取り組みました。
- ため池の有効活用やクリーク等の事前排水の取り組みの推進が図られました。
- 各自治体で、防災情報のプッシュ型配信や防災システムを構築し、防災情報発信の強化や充実が図られました。

①被害の軽減に向けた治水対策の推進

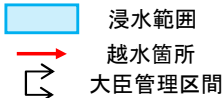
【河川における対策】

六角川水系緊急治水対策プロジェクト（位置図）

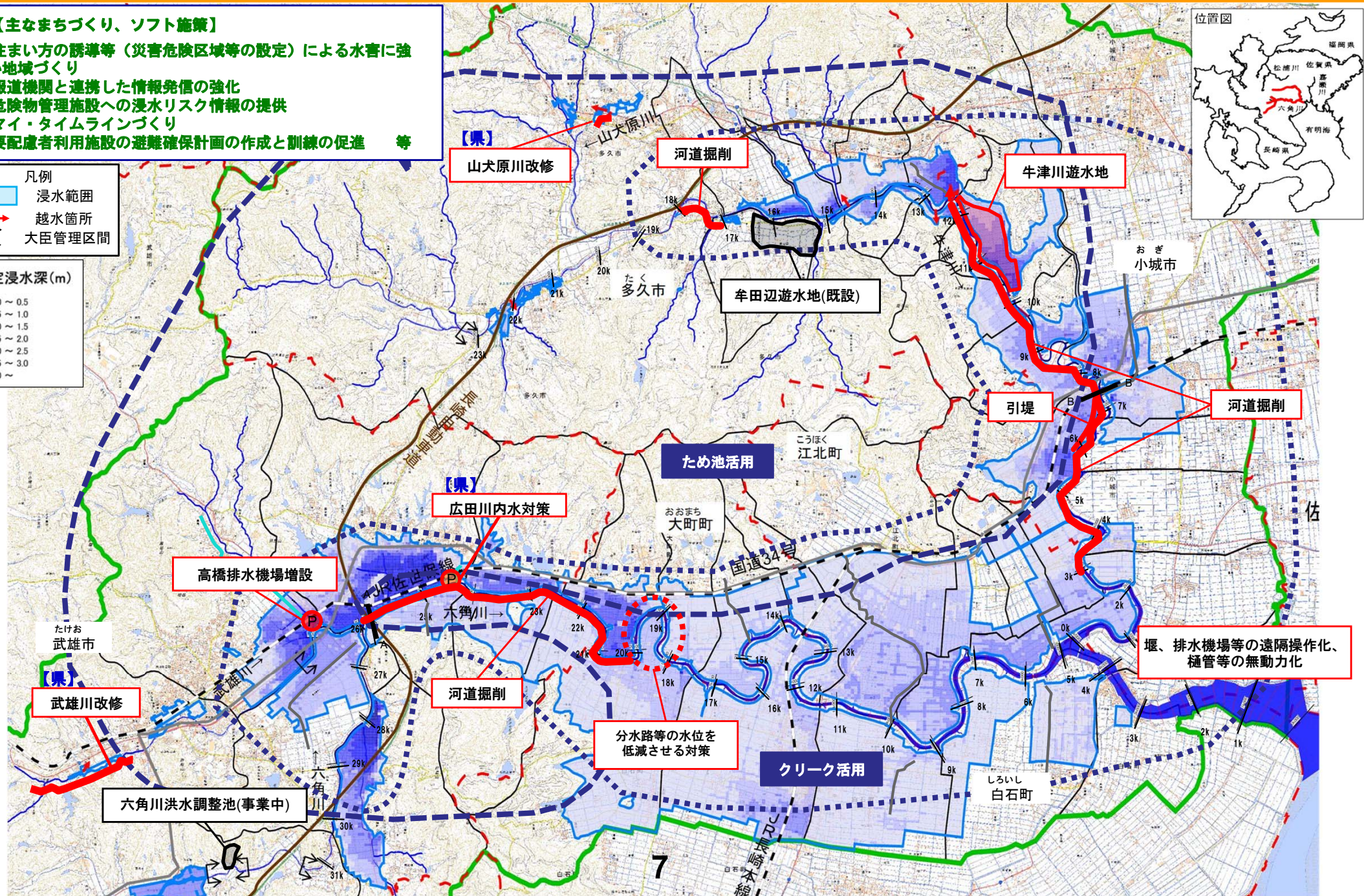
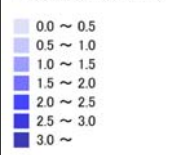
【主なまちづくり、ソフト施策】

- ・住まい方の誘導等（災害危険区域等の設定）による水害に強い地域づくり
- ・報道機関と連携した情報発信の強化
- ・危険物管理施設への浸水リスク情報の提供
- ・マイ・タイムラインづくり
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成と訓練の促進 等

凡例



推定浸水深(m)



六角川激特事業進捗事業（R3.5末）

—主たる進捗—

- 大規模な河道掘削約8割完了：（武雄市、多久市、小城市、大町町）
- 牛津川遊水地の用地買収、初期湛水池完了：（小城市）
- 高橋排水機場の増設（50m³/s⇒61m³/s）3号ポンプ契約完了：（武雄市）

六角川水系河道掘削



武雄市北方町（六角川 23.0K付近）



小城市牛津町（牛津川 8.0K付近）



牛津川遊水地



遊水地説明会



遊水地説明会 （オープンハウス方式）



高橋排水機場



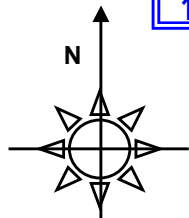
河道掘削状況



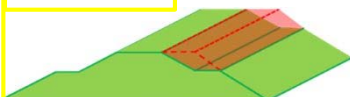
武雄河川事務所

令和3年5月末時点

佐賀県



堤防拡幅



武雄市

六角川25k000付近

施工状況



河道掘削



佐賀鉄工所前

六角川左岸
22k600付近

多久市

大町町

江北町

白石町

小城市

牛津川

六角川25k000付近

施工後



牛津川10k800付近

施工後

河道掘削土量

全体: 約370千m³

完成: 約290千m³ (78%)

【六角川】約190千m³

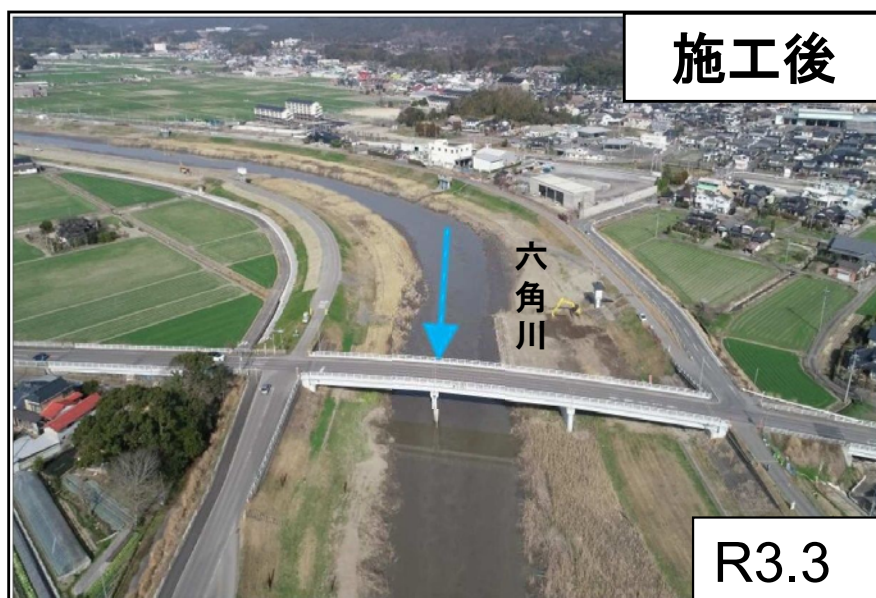
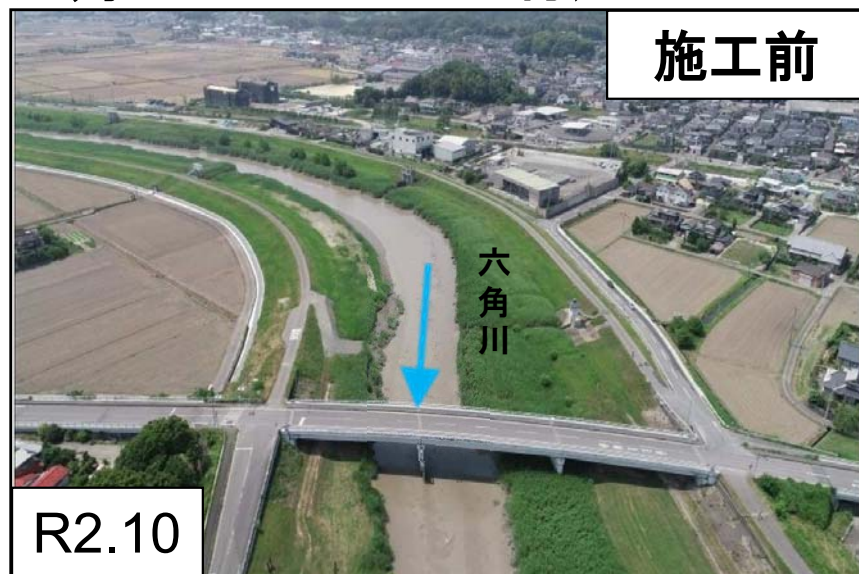
【牛津川】約100千m³

↑↑ : 国河川管理区間

9 新橋

河道掘削状況（六角川）

六角川 24 k 000 付近



下流から上流を望む

牛津川 11 k 400 付近



下流から上流を望む

○河道掘削の量

- 掘削した量＝約290千m³・・・一般的なダンプトラック（積載量10t）
のおよそ52,000台分

河道掘削状況



（1台あたり5.5m³）

土砂は有効に利用

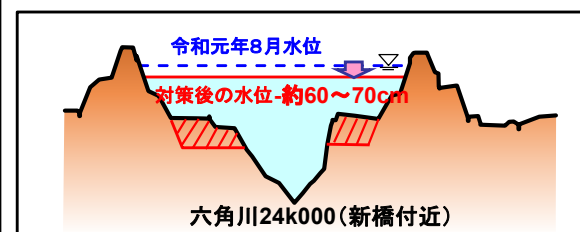
河川水位が低下



掘削土砂を用いて堤防に盛土し、離合場所を設置することで災害対策車の通行の確保につなげた。

さらに、掘削土砂の有効活用により、コスト縮減も図った。

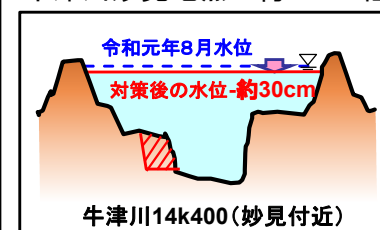
六角川新橋地点で約60～70cm低下



※記載の数値は速報値であり、今後調査で変更となる可能性があります

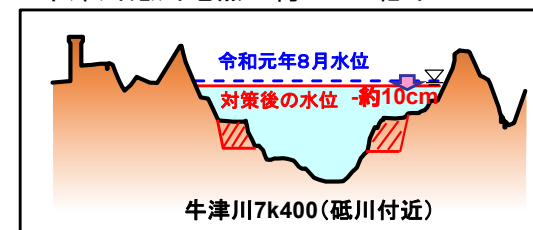
六角川24k000（新橋付近）

牛津川妙見地点で約30cm低下



牛津川14k400（妙見付近）

牛津川砥川地点で約10cm低下

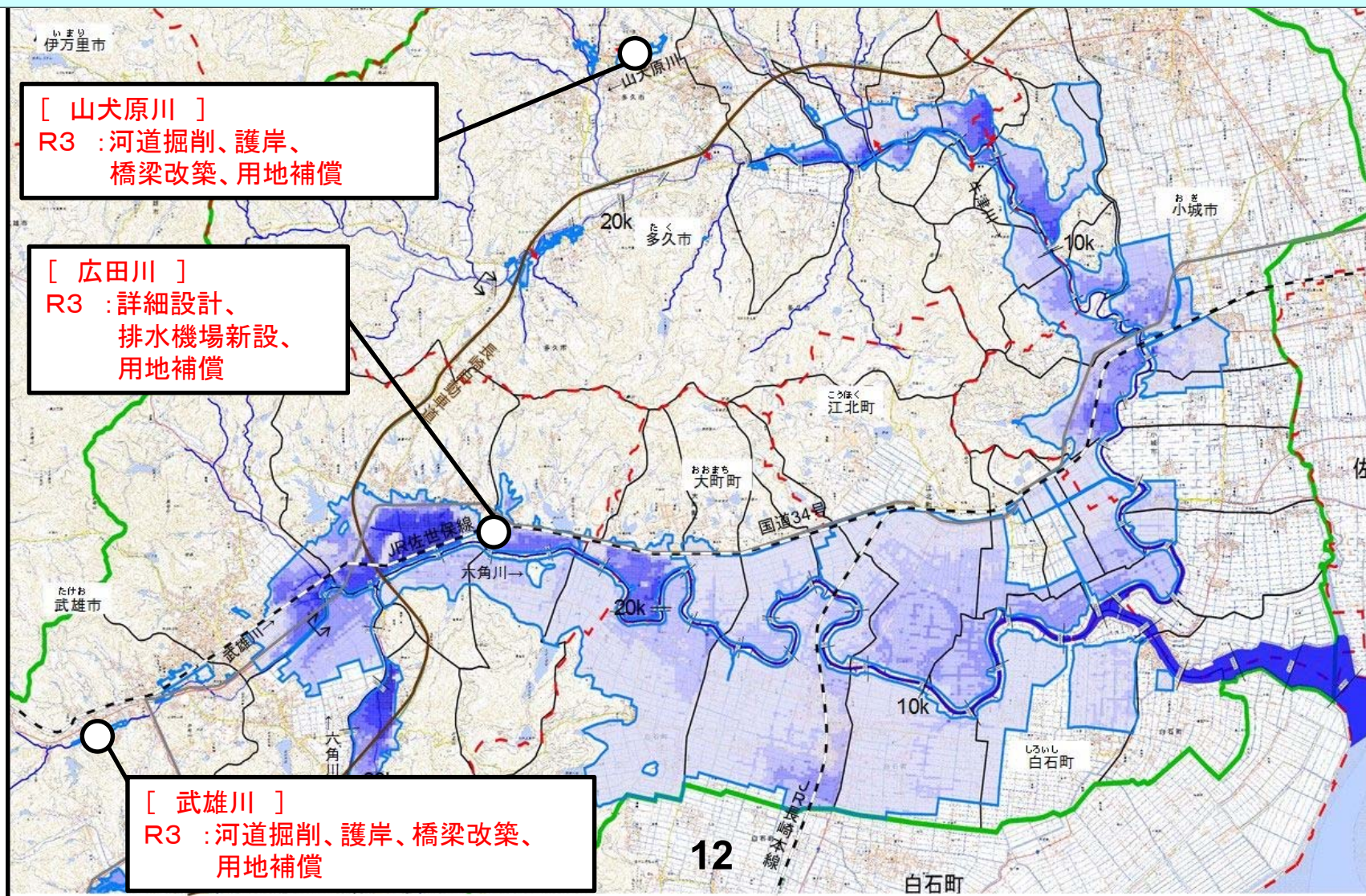


牛津川7k400（砥川付近）

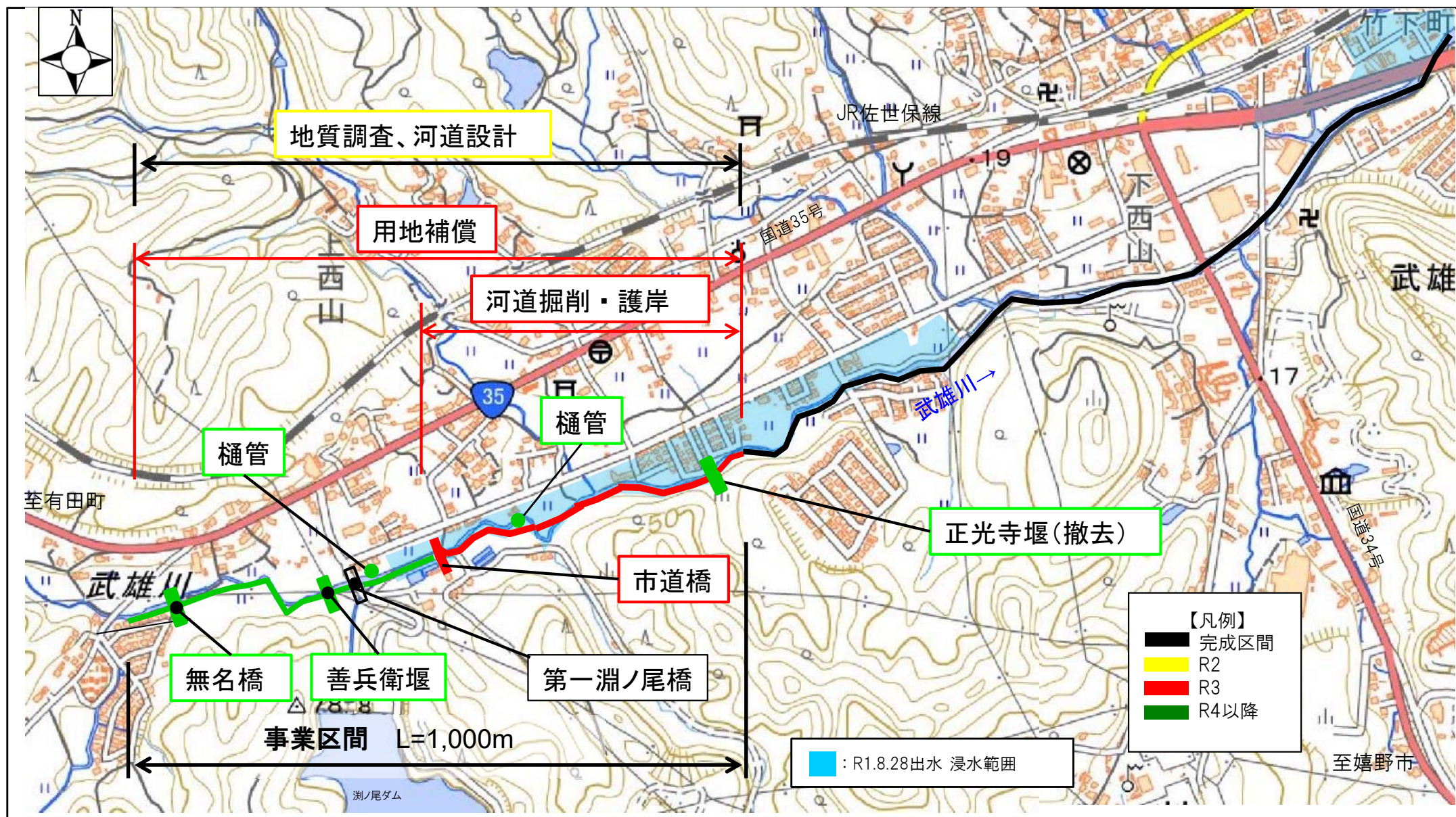
河川激甚災害対策特別緊急事業【六角川水系武雄川・広田川・山犬原川】（佐賀県）

令和元年8月26日から29日にかけて、前線により佐賀県において降り始めからの累加雨量が500mmを超え、潮見橋水位観測所及び妙見橋水位観測所において計画高水位を超過し、特に妙見橋水位観測所では、観測史上最高水位を記録した。

この洪水により甚大な浸水被害が発生したことから、河川激甚災害対策特別緊急事業により、今次洪水に対して、外水氾濫の防止、重要施設の浸水被害解消を図る。



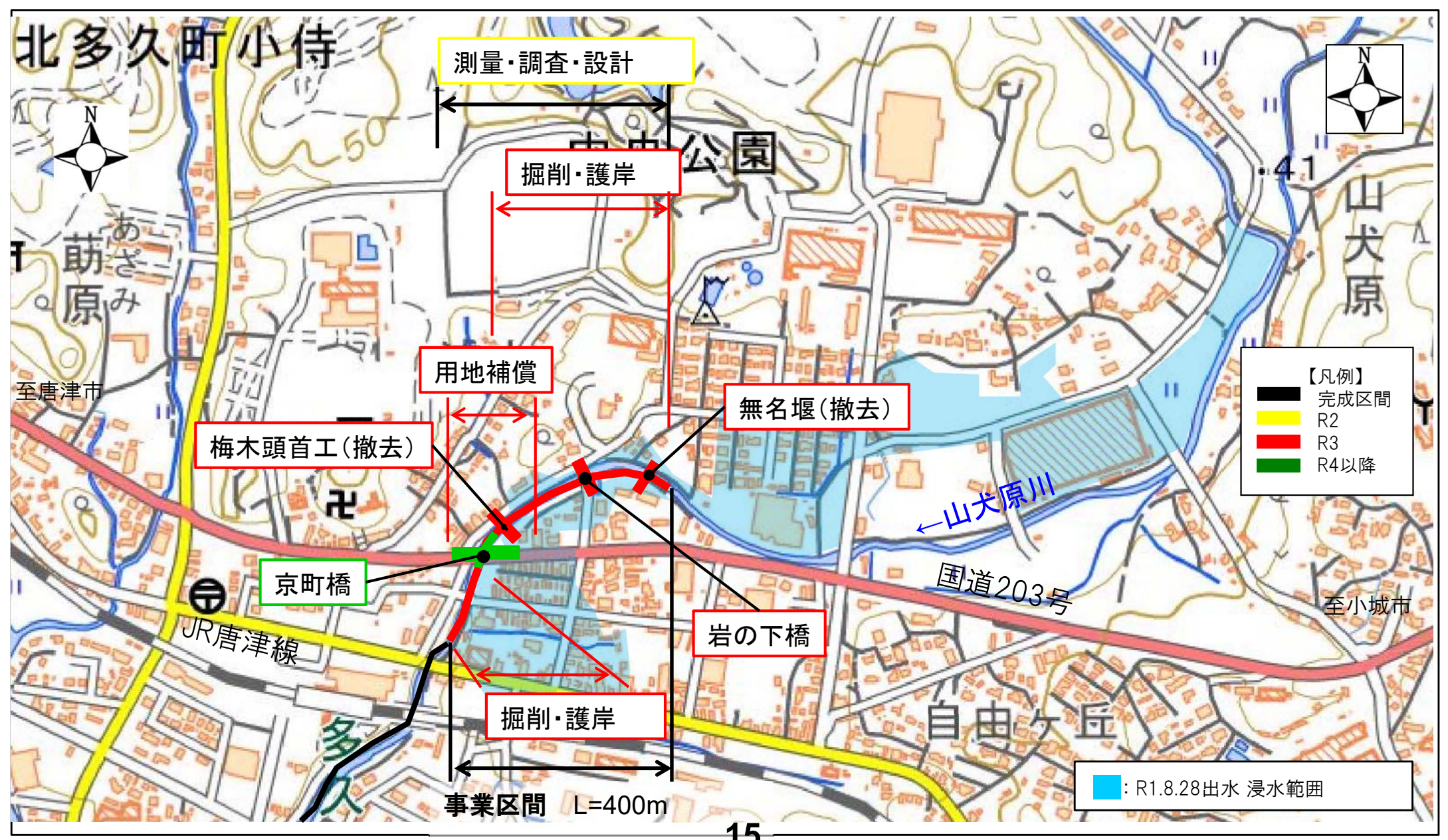
河川激甚災害対策特別緊急事業【六角川水系武雄川】（佐賀県）



ろっかくがわ ひろたがわ



河川激甚災害対策特別緊急事業【六角川水系山犬原川】（佐賀県）



②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進

【流域における対策】

③減災に向けた更なる取り組みの推進

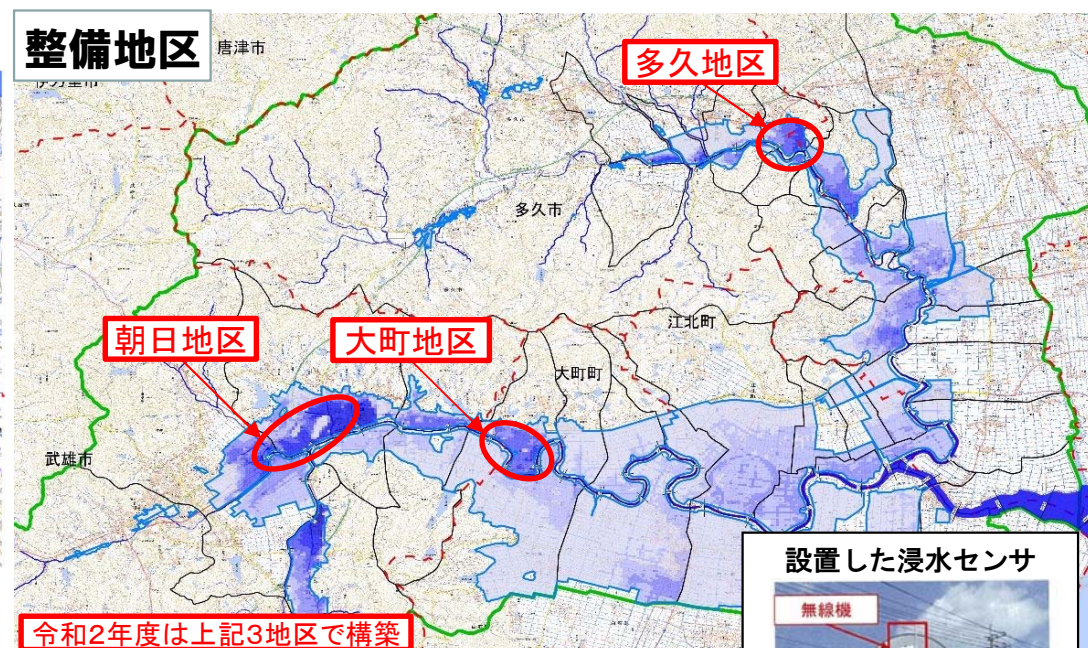
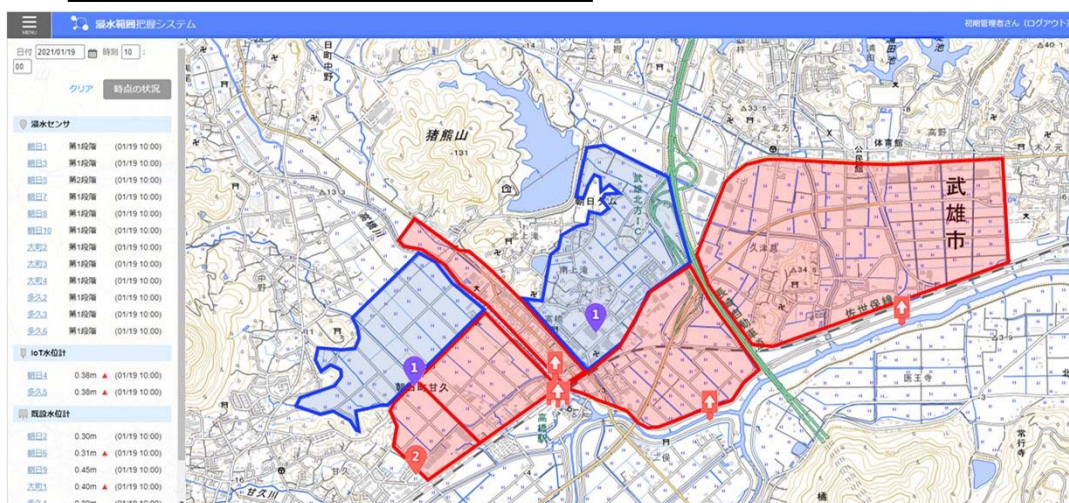
【まちづくり、ソフト施策】

1. 武雄河川事務所

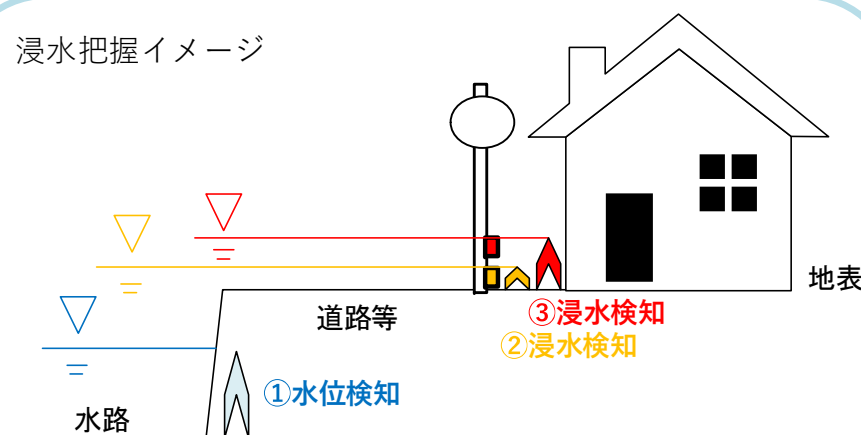
浸水予測情報等の発信（浸水センサ）

“逃げ遅れゼロ”へ向けた情報発信システム等の整備として、水位計、浸水センサ等の情報を収集し、リアルタイムの浸水状況を把握できるシステムを一部地域で構築しました。令和3年度は設置したセンサ等の検証実施と、構築エリアの拡大を図ります。

浸水把握システムイメージと内容



浸水把握イメージ



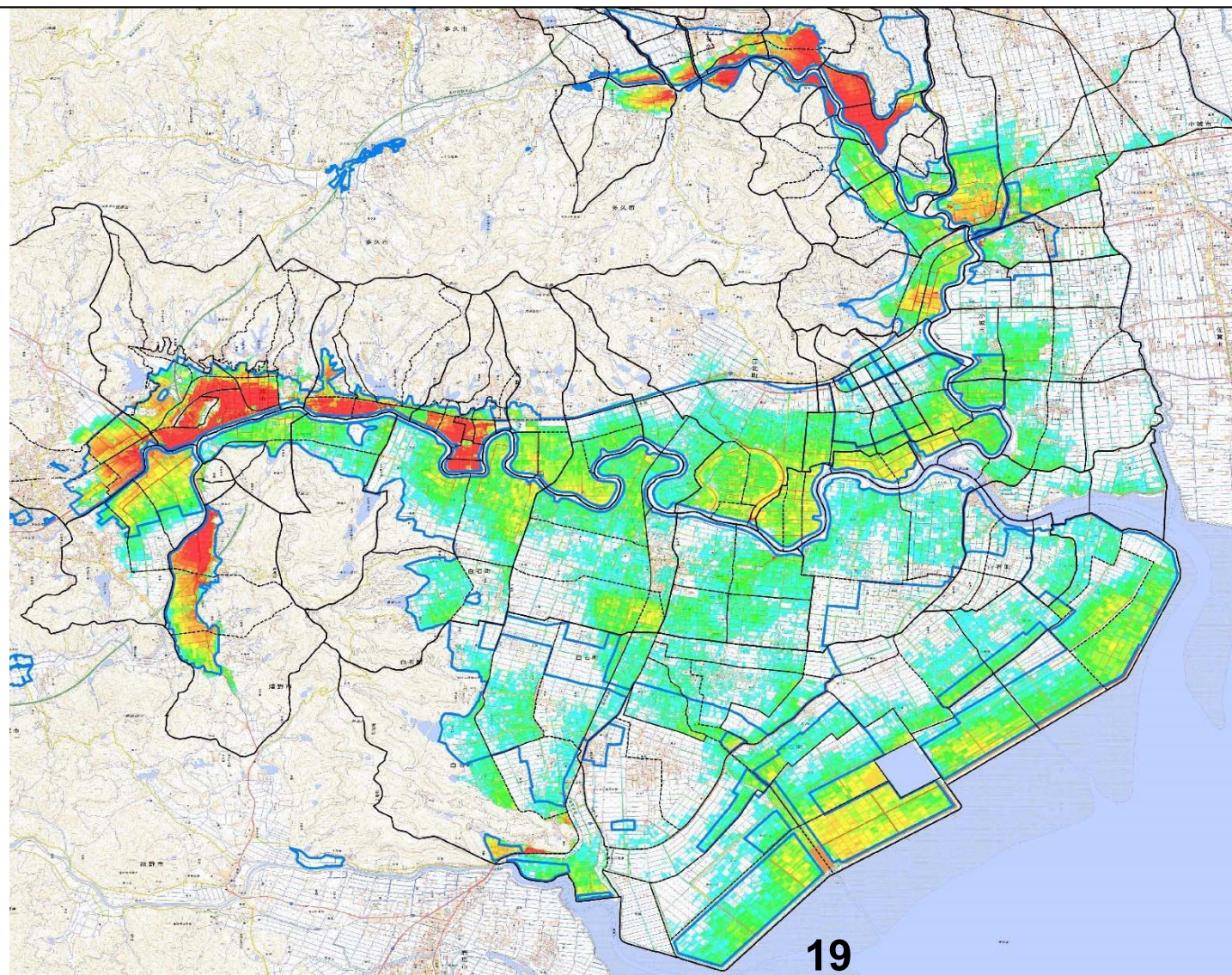
・リアルタイムに、内水位を把握し地図上に浸水状況図を示すことにより、安全な避難経路の選択が可能。

設置した浸水センサ

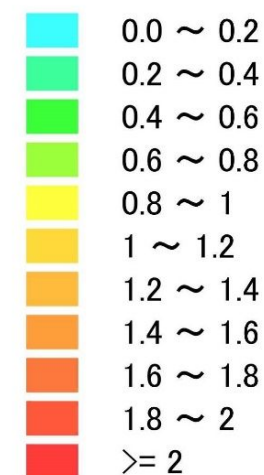


浸水予測情報等の発信（内水解析）

- 令和2年度に実施した航空レーザ測量成果を用いて、六角川水系全体の内水解析を実施し、令和元年8月出水における浸水域、浸水深を再現した。
- 今後は令和2年度に設置した浸水センサや既存水位計のデータをもとに内水解析の精度検証を行い、内水予測システムの構築を目指しています。



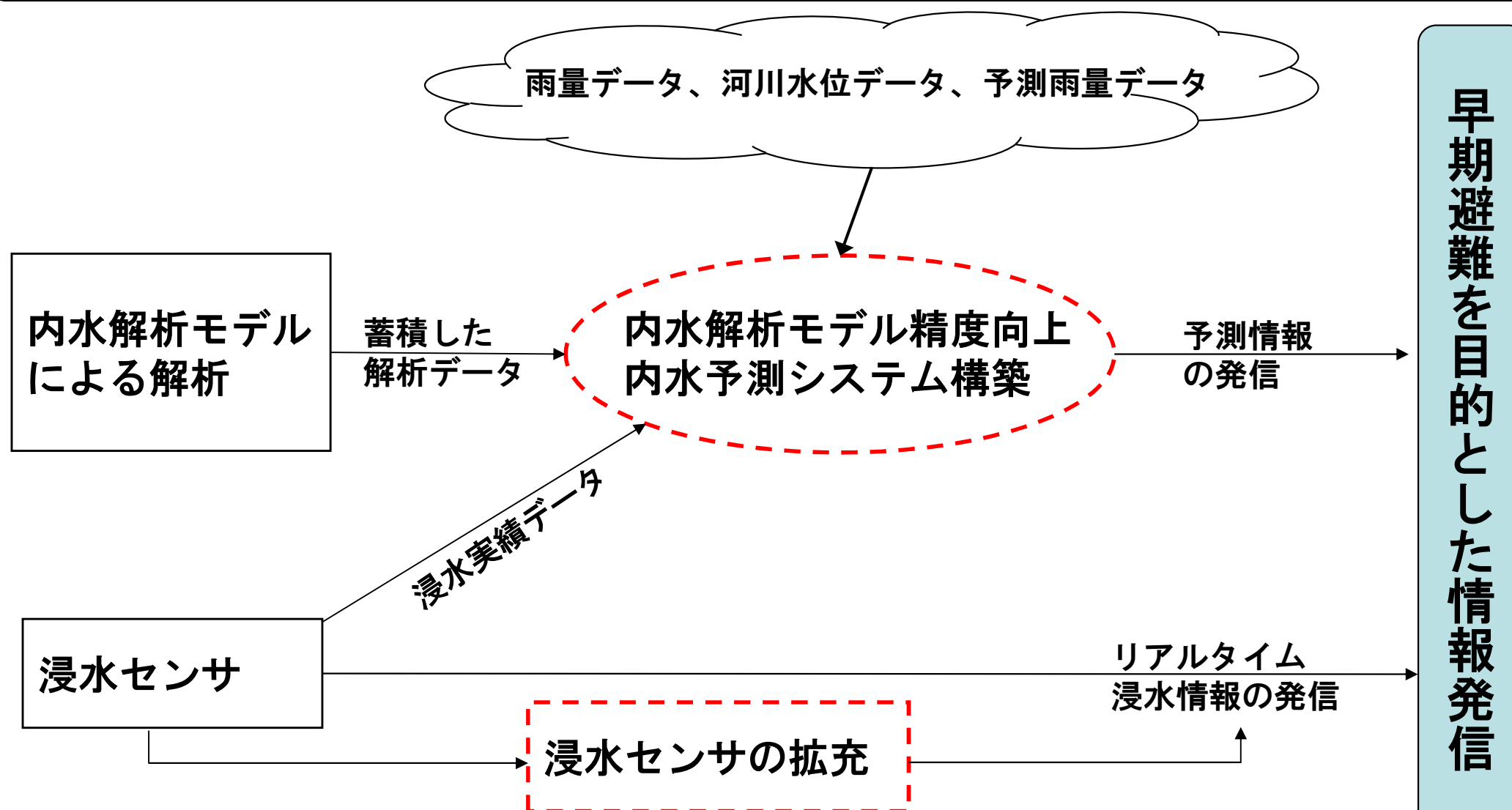
浸水深(m)



— : R1.8浸水実績

浸水予測情報等の発信（内水予測システム構築）

浸水センサで把握したデータや、雨量・河川水位データを活用して内水解析モデルの精度向上を行い、内水予測システムを構築し早期避難を目的とした情報発信を目指します。



「逃げ遅れゼロ」へ向けた取組として、地域住民が自ら作成するマイ・タイムライン作成の支援を自治体と協力し行っています。

このような防災教育や、防災知識の普及に関する取組は、今後も継続して行います。



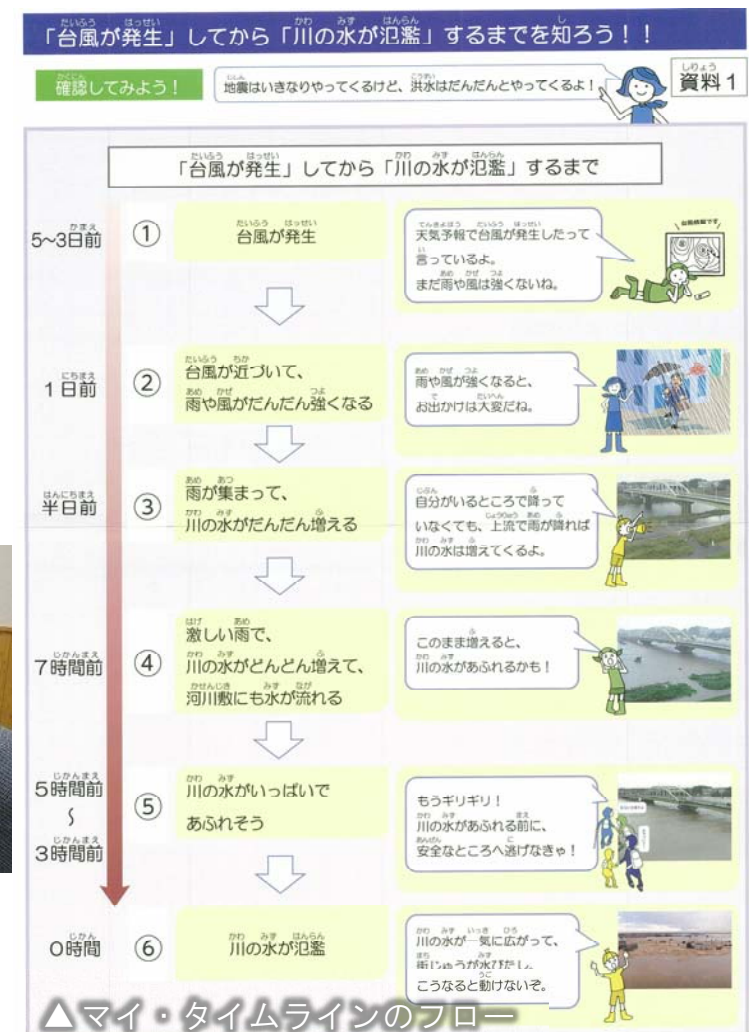
▲ 全景



▲ 結果報告



▲ハザードマップで浸水範囲や避難所等を確認▲



2. 多久市

防災行政無線の 情報伝達の機能強化を実施

- 災害が頻繁に発生する中、緊急時における情報提供の機能強化を実施します
- 防災行政無線の操作卓の機能強化により、パソコンやスマートフォンなどを利用した情報発信を可能とし、情報伝達の迅速化を図ります
- 多久市緊急情報メール通知サービスの周知と登録者数の増加を図ります
- 電話応答が可能な方に対し、身近な電話機による防災情報の自動配信サービスを導入します
- 戸別受信機の台数を拡充し、スマートフォンや携帯電話を利用した情報収集が困難な家庭を対象に貸与します



防災無線システム



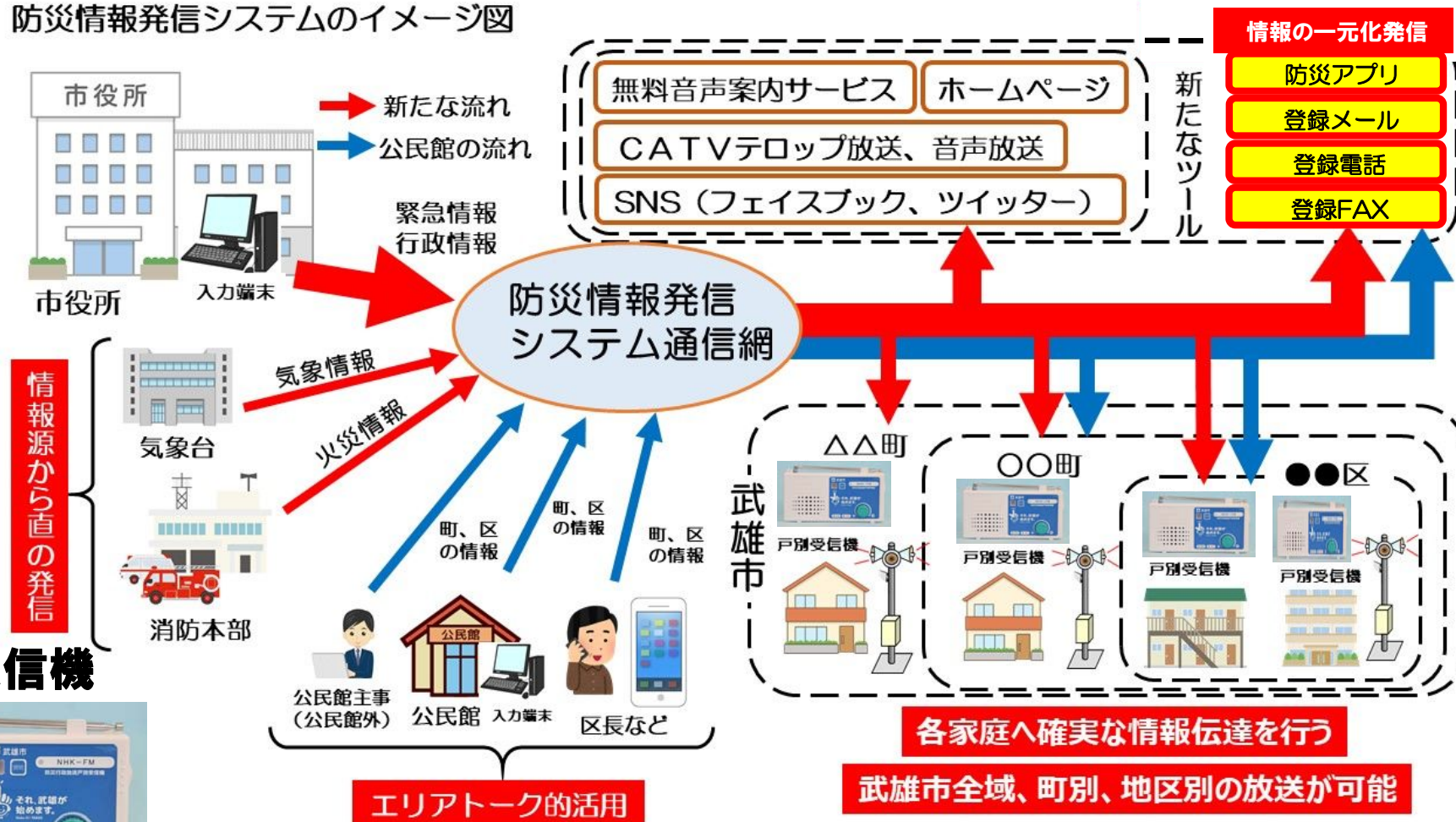
防災無線・メール・電話機・戸別受信機

3. 武雄市

防災情報発信システムからの情報の一元化発信システムの構築(令和2年度～3年度)

戸別受信機の全戸を対象とした設置 (6月11日現在の申請数:8160世帯 43.3%)

防災情報発信システムのイメージ図



戸別受信機



防災アプリの構築

情報収集の多重化、確実に届けるためにプッシュ型機能を搭載した「防災アプリ」を公開
(令和3年度6月11日にリリース)



●防災アプリの特徴

①確実に情報を届ける（正確かつ迅速に伝わる）

◆情報のプッシュ通知



- ・防災情報
- ・火災情報
- ・避難所混雑情報等

◆安否確認SOS機能



iOS版アプリ
QRコード

Android版アプリ
QRコード

状況と位置情報を登録している
人にすぐに通知が出来る

②どこに居ても、誰にでも情報を届ける

◆多言語（8か国語）



日本語、英語、中国語（簡体、繁体）
韓国語、ベトナム語、タガログ語、
ビルマ語（ミャンマー語）

◆避難所情報把握



スマホをかざして、避難
所の位置・状況を確認

③更なる防災教育

◆災害危険度AR体験



現在位置の浸水
土砂災害想定を
アニメーションで表
示

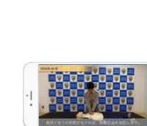
◆防災教育動画



◆ハザードマップ

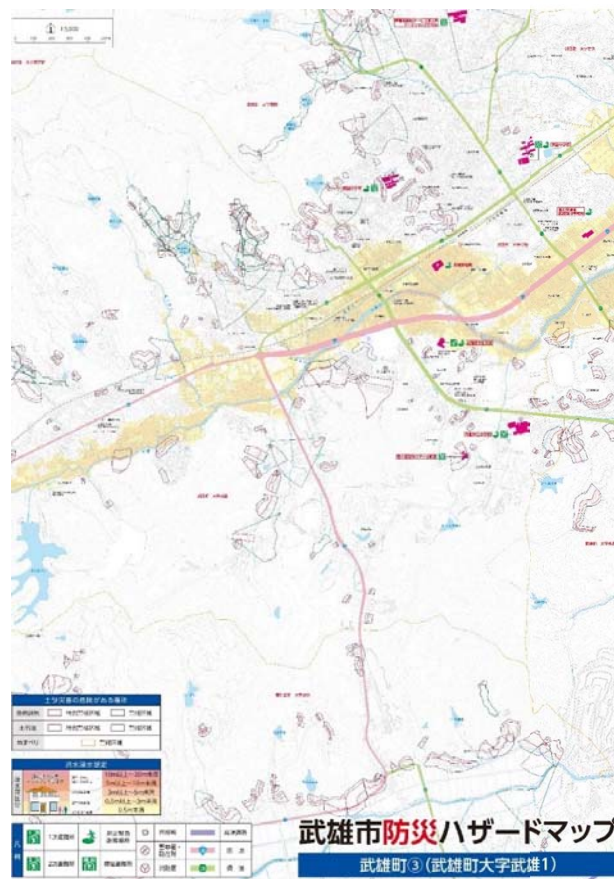


◆A E D



ハザードマップの更新

予想しうる最大浸水深と、土砂災害警戒区域（レッドゾーン、イエローゾーン）を合わせたハザードマップを作製。（令和3年4月1日全世帯へ配布）



ハザードマップ



WEBハザードマップ 3

浸水位置表示看板の設置

令和元年8月豪雨災害で浸水した場所に浸水位置表示看板を設置。
災害危険個所の周知と後世への伝承を目的とし、令和2年度市内127か所に設置。



浸水位置表示看板

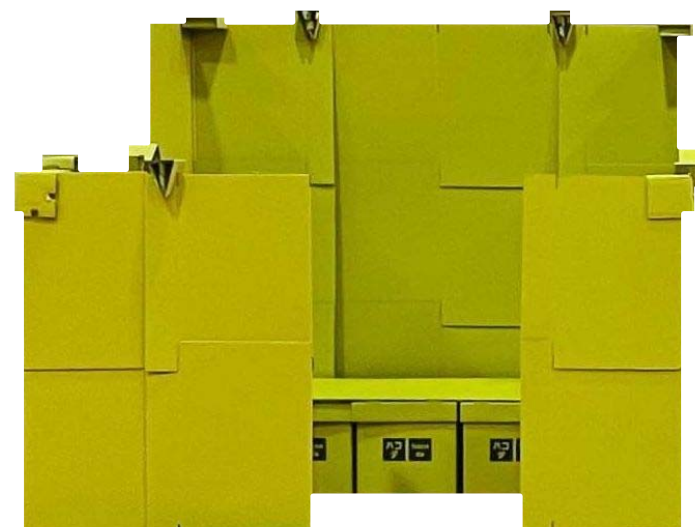


段ボールベッド、段ボール間仕切りの配備

令和2年度、段ボールベッド、段ボール間仕切りを（株）サガシキと共同開発。
災害時応援協定締結により優先的に調達可能。



令和2年台風10号の反省を基に、
令和3年度、軽量化、コンパクト化による
バージョンアップを図った。



プッシュ型出前講座の開催

市民の方の防災意識の向上を目的とし、全行政区を対象に令和2年度から出前講座を開始した。

（令和2年度の実績：延べ28回、299名に受講していただいた）

この出前講座は、令和3年度、令和4年度も継続して実施することで、更なる防災意識の向上に繋げ、地域での防災活動の促進を図る。

あわせて、市民の方の避難行動「自助」や、地域での「共助」を進めていく。



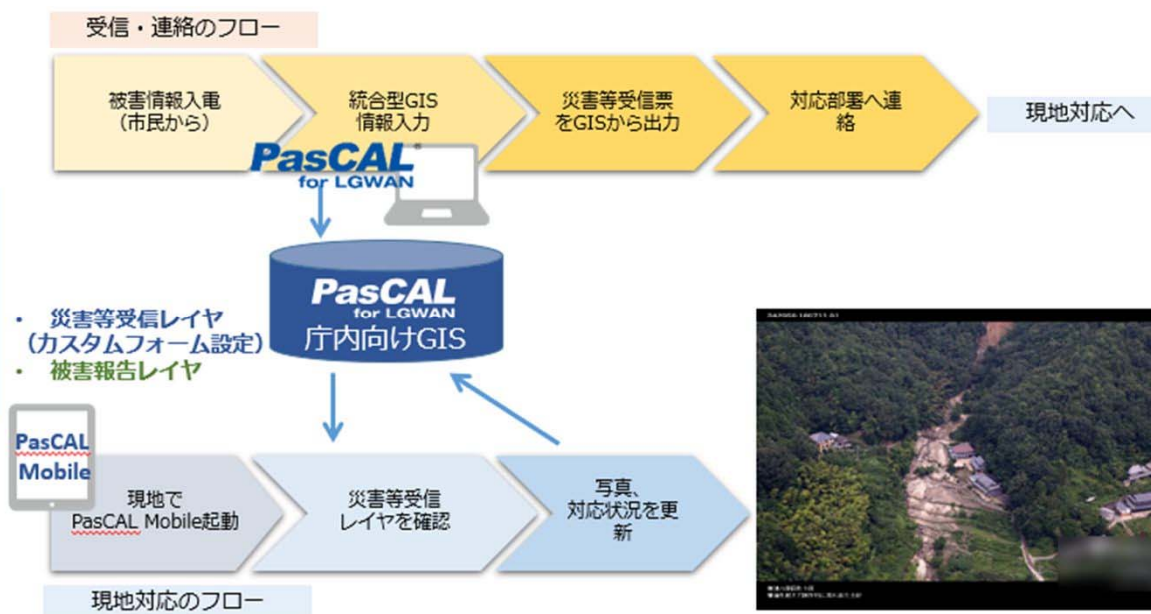
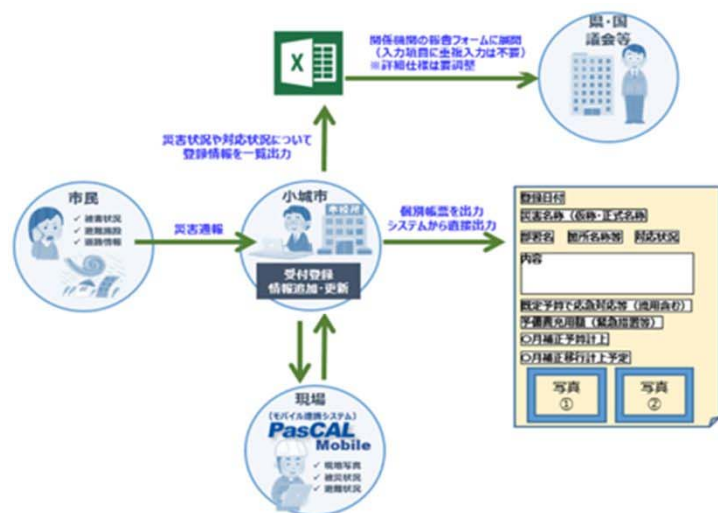
4. 小城市

○防災システム（GIS）の構築【令和3年7月中旬以降運用開始予定】

特に市民からの電話による、救助要請、通行止め、災害発生箇所等の問合せに対し、市民がどの場所にいるか位置情報を把握する際、ゼンリン地図等により確認を行っていたため、災害対応に大きな時間的遅れが生じた。

そのため、災害時情報を効率的かつ迅速・正確に一元管理できるシステムを構築。

災害時におけるGIS活用



■職員の水防活動情報が共有できる防災システム（GIS）の構築【小城市】 2/2

避難所開設状況のリアルタイムでの把握

避難所一覧（避難所_プロパティ）

ID	避難所名	避難可能人数	避難人数	避難状況	支援部員人数	毛布在庫	毛布実数	食料在庫	食料実数	水在庫	水実数	開設状況
1	〇〇小学校	100	90	30	1	110	19	100	10	110	9	開設
2	〇〇児童センター	200	180	90	5	220	38	200	20	220	18	開設
3	〇〇町中央公民館	150	145	50	7	165	19	150	15	165	4	開設
4	〇〇町役場庁舎	300	212	82	30	330	109	300	30	330	79	開設
5	〇〇多目的センター	100	80	35	3	110	28	100	10	110	18	開設
6	〇〇くもりの郷	50	30	15	1	55	23	50	5	55	18	開設
7	〇〇集会所	40	30	12	0	44	13	40	4	44	4	開設
8	〇〇センター	50	30	13	1	55	23	50	5	55	18	開設
9	〇〇公民館	100	74	25	2	110	33	100	10	110	10	開設
10	〇〇小学校	100	55	12	1	110	50	100	10	110	10	開設
11	〇〇体育館	50	40	10	1	55	14	50	5	55	14	開設
12	〇〇中学校	30	10	3	0	33	21	30	3	33	3	開設

避難所のリアルタイムの人数を一覧で表示でき、CSVではきだすことができます。

■成果（見込み）

庁内の情報共有、災害状況の把握に基づく災害対策本部の運営、市民・関係機関への情報提供を全庁的に行うことができるようになり、災害対応を迅速かつ正確に行うことができる。

また、災害活動中の職員のみならず、自宅等で待機している職員についても、本人所有のスマートフォンを利用しリアルタイムの災害状況を把握することができる。

モバイルシステムの活用 →



■今後の予定

住民公開型GIS（おぎまっぷ）でのハザードマップの公開。

また、リアルタイムの災害発生状況、避難施設の状況、通行止め情報等の公開を検討していく。

■水防災教育・出前講座等を活用した講習会の取組の拡大【小城市】

○外国人防災講習会

実施日：令和2年12月6日(日)

参加者：ワタキューセイモア株式会社 中国人技能実習生48名 職員2名 通訳1名

日本赤十字社 佐賀県支部2名 佐賀県国際交流協会6名、通訳1名

小城市7名 ほか 計 73名

内 容：小城市ホームページからの災害情報取得方法や企業の職員や実習生同士が災害時の情報を共有できるようになることを目的に講習会を実施した。



■成果

行政、企業、関係団体と協力連携することができた。また、外国人への防災意識の向上を図ることができた。

■今後の予定

次年度以降も継続的に実施していく。

○市民講座 町の元気塾 ～ 地域の情報を知り、災害に備えましょう!! ～

実施日：令和2年7月11日(土) 参加者：市民 50人

内 容：自分の住んでいる場所が地震、土砂災害、洪水などの災害リスクがあるかハザードマップを用いて確認し、また、スマートフォンを用いた気象情報等の情報取得方法の習得を図った。



■成果

スマートフォンを用い、自ら気象情報等取得することにより参加者の防災意識の向上を図ることができた。また、小城市アプリ「0gi0gi」（防災情報機能有）を広報することができた。

■今後の予定

次年度以降も継続的に実施していく。

■水害リスクが高い区間における地域住民が参加する共同点検や訓練等の実施【小城市】

令和2年度 自主防災訓練

【三日月町樋口地区】

- 実施日 令和2年6月28日（日）
- 参加団体（42名）
住民、消防署、消防団、小城市
- 訓練内容
情報伝達訓練、消火栓取扱訓練、防災情報の取り方の研修



【三日月町深町地区】

- 実施日 令和2年9月27日（日）
- 参加団体（計31名）
住民、消防団、小城市
- 訓練内容
マイプラン、タイムライン及び防災情報の取り方の研修



【小城町鷺ノ原・平原・西谷地区】

- 実施日 令和2年10月18日（日）
- 参加団体（計36名）
住民、消防団、小城市
- 訓練内容
サーマルカメラ設置及び非接触型体温計の取り扱い説明
避難所設営、運営の説明とデモンストレーション



優良自主防災組織表彰（知事表彰）



5. 大町町

既存排水機場の耐水化の推進

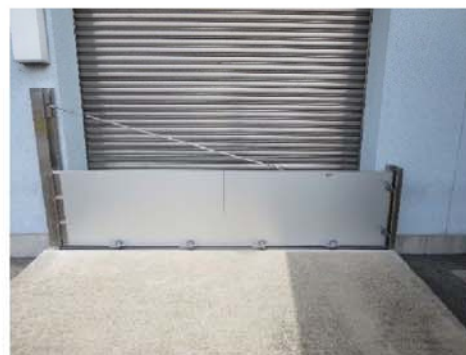
■防水壁の設置【大町町】

○浸水によるポンプ操作室への水の流入を防ぐため、防水壁及び防水扉を設置した。

令和2年12月事業完了



通常防水扉開放時



浸水時等防水扉設置時



管理室入口防水壁設置時

情報発信の取り組み

■防災ラジオの各戸配布



○大雨時など聞き取りづらい防災無線放送を、
各世帯に直接発信することで確実に伝達する。

平時はラジオを聴く事ができます。

6. 江北町

情報発信アプリ「江北町くらしの情報ナビ（へそナビ）」導入【情報伝達】

■いつでも、どこでも、プッシュ式で町情報をお届け！【江北町】

○いつでも、どこでも、プッシュ式で、情報を受信することができるようにすることを目的に「へそナビ」を導入した。

iOS版



Andoroid版



■成果

○防災行政無線の拡声子局や宅内の戸別受信機から離れていても、スマホを通して町の「定時放送」「緊急情報」をお伝えできるようになった。

■今後の予定

○多くの方にインストールして頂くため、地区のイベント等でスマホ講習会、防災講話を行い、その中でアプリの紹介を行う。
 ○WEBラジオの機能で、飲食店や観光PR情報も発信し、地域の活性化につなげていく。
 ○きめ細やかな町の情報発信を行い、町民や町出身者、町関係者により多く利用してもらう。



地域が連携した浸水被害軽減対策の推進（流域における対策）

【大雨時の水路事前落水】

- ・事前落水の仕組み作り
- ・幹線水路ごとの連絡体制の整備

○事前落水の手順

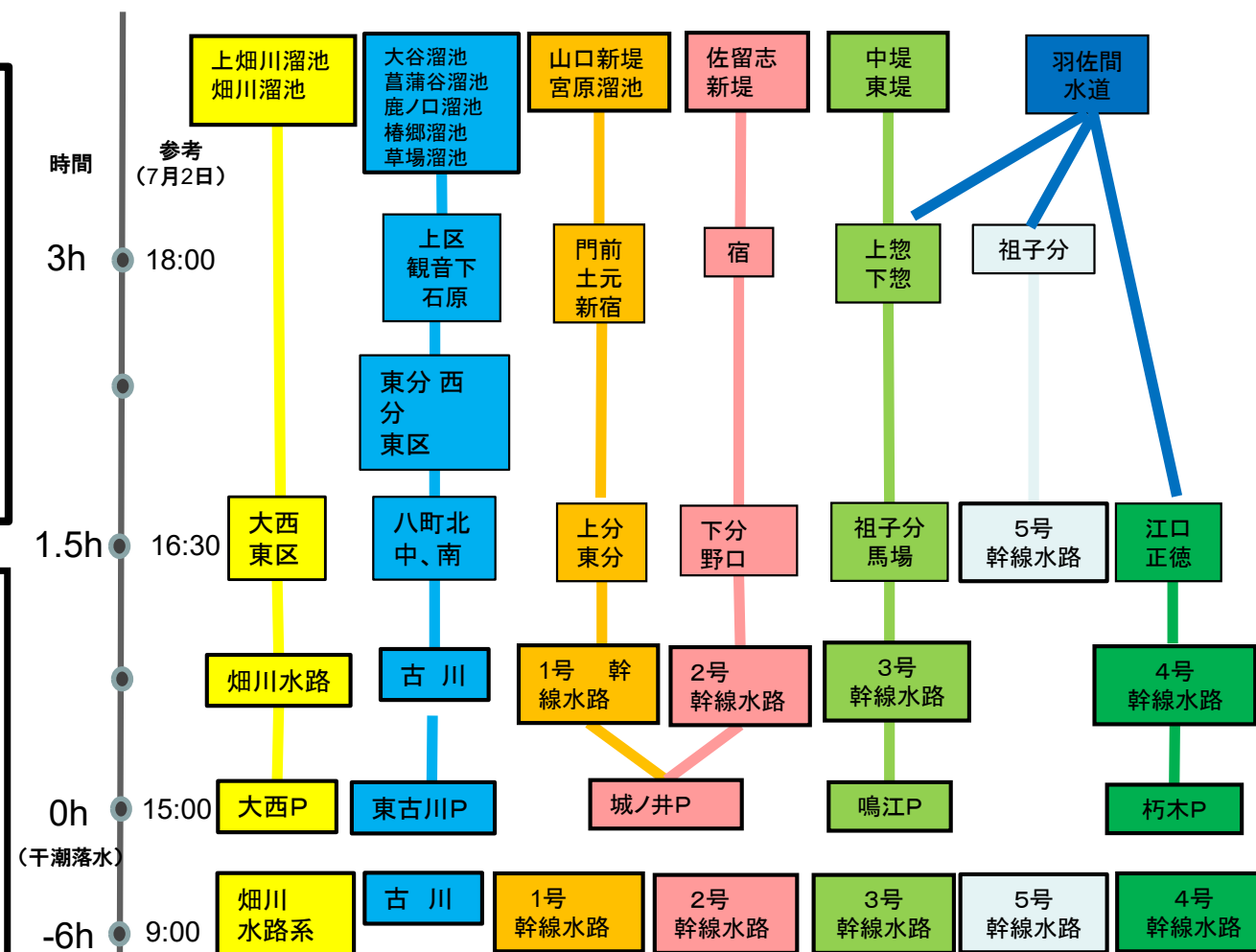
【町の対応】

- ① 佐賀地方気象台の気象情報を確認をし、今後事前落水の要請を行う旨を連絡する。現場確認を行う。
- ② 佐賀地方気象台の情報を確認し事前落水の要請を決定する。
- ③ 決定後、各水域の最下流の水管理の代表の方に要請を行う。
- ④ 併せて、その他（上流）各水域の水管理の代表の方に要請を行う。
- ⑤ 要請後、現場確認を行う。

【地元の対応】

- ① 連絡を受けた場合落水要請に向けて準備を行う。
- ② 要請を受けた時最下流の水管理者代表の方は、関係者に連絡を取り落水を行う。
- ③ 上流の水管理者代表の方は、関係者に連絡を取る。下流の落水具合を確認し、落水を行う。
- ④ 最下流の水管理者は、水位を確認し再度落水を行う。

○各水系の構図



7. 白石町

■既存施設運用等

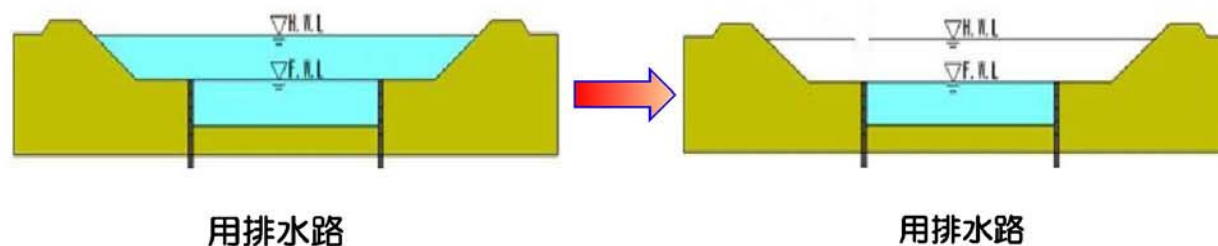
【豪雨に備えたため池やクリーク等の早期排水】

【大雨に備えた事前の対策】

- 大雨警報が想定される場合 → 防災行政無線により、町内全域に事前排水を呼びかけ
- 町内巡回により、個別に事前排水を要請（ほか電話連絡等）

治水効果

湛水被害を軽減するため、大雨時の一時貯留断面を確保



《排水調整会議の開催》

- 近年の天候（大雨）の傾向と対策
- 事前排水の重要性の説明
- 調整員、上下流地域間の連携強化など



ゲート操作による排水調整

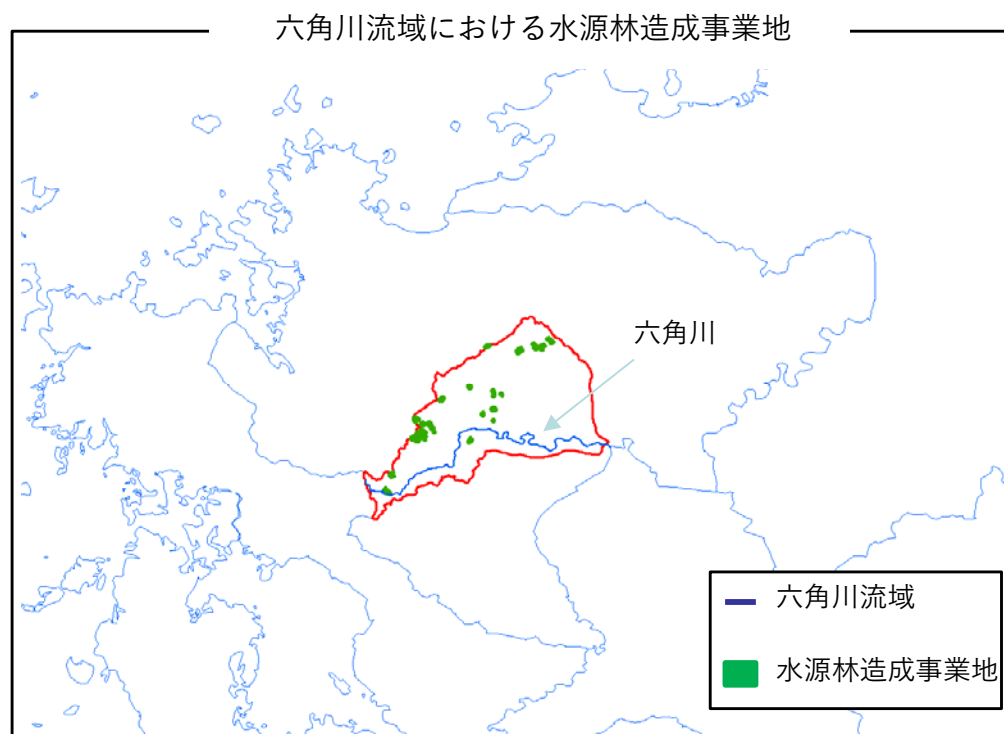


効果 ○町内各地域に事前排水を呼びかけ、事前排水の徹底を図ることで湛水被害の軽減と町民の防災意識の向上を図ることができた

8. 森林整備センター

■ 水源林造成事業による森林の整備・保全

- ・ 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- ・ 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- ・ 六角川流域における水源林造成事業地は、22箇所（森林面積 約203ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



9. 佐賀県

②災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組

■住民への周知【佐賀県危機管理防災課】

◆防災アクション推進事業

県民に普段から防災行動（防災アクション）を促すため、啓発映像（約50秒のアニメーション動画）を作成し、YouTubeやTwitterなどを用いて、主に若年層に向けた啓発を行った。
 （⇒災害に対する意識改革と日ごろからの備えを充実）



動画の再生回数 約14万回



➡ 今年度（令和3年度）の取組

- ①令和2年度に作成した上記動画を、県内の映画館（109シネマズ佐賀）で映画上映前のCM（シネアド）として放映予定。
 放映期間：令和3年6月18日～9月30日
- ②県民に普段から防災行動（防災アクション）を促すため、啓発映像の第2弾として「平時の準備編」を作成し、YouTubeやTwitterを用いて啓発予定。

**COMING
SOON**



■水害の記憶の伝承①【佐賀県危機管理防災課】

◆令和元年佐賀豪雨災害パネルの活用

令和元年佐賀豪雨災害を風化させず後世に語り継ぐため、令和元年にパネルを作成。様々な場面で活用するとともに、市町等へも貸出しを実施。

○令和元年佐賀豪雨災害パネル展の実施

場所：佐賀県庁新館県民ホール

期間：令和2年8月26日（水曜日）～9月1日（火曜日）

○地域防災力向上シンポジウム in 佐賀2021 での展示

場所：唐津市高齢者ふれあい会館りふれ

期間：令和3年1月14日（木曜日）

○武雄市防災・減災課へ貸出し

内容：武雄市図書館・歴史資料館企画展

「水とともに生きる武雄の災害と治水」

期間：令和2年7月3日（金曜日）～8月18日（火曜日）

○武雄市生涯学習課へ貸出し

内容：武雄市人権フェスタ

期間：令和3年12月11日（木曜日）～12月21日（月曜日）



「地域防災力向上シンポジウムin佐賀2021」
で展示された佐賀豪雨災害パネルを見る参加者

※引き続き、パネルの市町等への貸出しが可能です。
希望される場合は、県危機管理防災課へご相談ください。

③防災教育や防災知識の普及に関する取組

■水害の記憶の伝承②【佐賀県危機管理防災課】

◆『伝えよう 佐賀の災害歴史遺産』

- 県内には、過去の災害対策等を現代に伝える「災害歴史遺産」が建造物や石碑、行事等様々な形で残っているが、その存在が知れ渡っているとは言えない状況にある。
- 県では、災害歴史遺産の由来等を紐解き、そこから得られた教訓を伝えていくことにより、地域の防災力向上に資するとともに、今後も災害歴史遺産を守っていくという意識の高揚を図るため、令和元年佐賀豪雨災害についても収録された『伝えよう佐賀の災害歴史遺産』を作成し、県内の小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校へ配布を行った。
(小学5年生を対象)
- 今年度（令和3年度）も同様に作成し、配布予定（約10,300部）

